

NPO 法人新潟みなとクラブ広報誌

港の“元気”を伝える

みなぼーと新潟

Vol. 5

2009年度版

- 平成21年度通常総会の開催
- <特集> 湊まち新潟歴史ウォーク
- みなと勉強会「技術の伝承」
- <海域環境改善> 生物共生護岸



新潟港～小樽港（北海道）カーフェリー

[NPO法人新潟みなとクラブの主な活動]

- 広報誌「みなぼーと新潟」の発行
- 「みなと」の文化・歴史に関する展示会の開催
- 講演会、学習会を開催し、みなとまちづくりについて学ぶ
- みなとの利用、活用に関する要望のヒアリング
- みなとに関する調査・研究
- ◆ みなとまち新潟を愛し、みなとまちづくりに参加したいと思う方をお待ちしています。
- 入会申し込み方法：入会申込書を事務局（携帯電話：090-5510-3443）宛送付。詳しくは事務局にお問い合わせください。

2009年は新潟港開港140周年～ ～150周年記念に向けての活動

平成21年度

NPO新潟みなとクラブ通常総会開催

平成21年5月17日(日)14時～
於クロスパルにいがた講座室



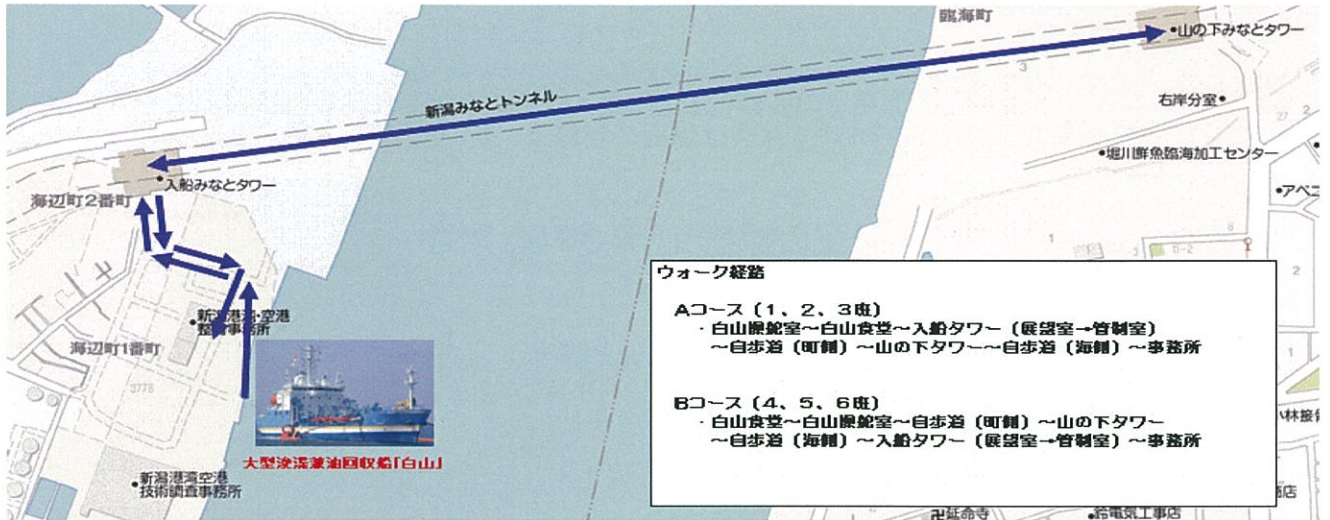
- ◆ 「NPO新潟みなとクラブ」は平成21年度に設立4年目を迎えました。今年、修好通商条約により新潟が開港5港(函館、新潟、横浜、神戸、長崎)の1つに指定され、1869年1月1日(太陽暦)に開港してから140周年を迎えております。
- ◆ 当クラブの総会においても、引続き地域との連携を図りつつ市民的立場でみなとの発展を支え、来るべき10年後の「開港150周年」を迎えるための活動方針が決定されました。
 - ◎ 主な活動事業としては、「みなとに係る啓発・普及事業」、「みなととみなとまちづくり推進事業」、「みなとまちづくりに係る技術・知識を伝承する事業」、「みなとに係る調査・研究事業」等があります。
 - ◎ 総会の締めくくりとして、三村哲司当クラブ会長より「みなと講話」がありました。
- ◆ 「湊まち新潟歴史ウォーク」の年間スケジュールとテーマも以下のとおり決まり、一般市民の皆さんへの参加募集が始まりました。

「湊まち新潟歴史ウォーク」全体計画

月日	テーマ	探訪サイト	見学内容
5/30(土)	湊まち新潟の概説	みなとピア 朱鷺メッセ	みなとピア、朱鷺メッセの見学
6/20(土)	新潟湊の下町散策	新潟島 下町周辺	湊稲荷神社、金比羅神社等、新潟下町の散策
7/18(土)	河川の変遷と湊の埋没	新潟西港港口部周辺	新潟みなとトンネル、大型浚渫兼油回収船「白山」の見学
8/22(土)	水運で活用されている水路散策	山の下地区 通船川周辺	津島屋閘門排水機場、通船川、山の下閘門排水機場の見学
9/5(土)	新潟湊の小路散策	新潟島 本町、古町周辺	本町下市場、甚九郎小路、銅屋小路等、新潟湊の小路散策
10/24(土)	沼垂湊と発酵の町散策	沼垂地区周辺	日石赤レンガ工場、沼垂町屋の散策
11/14(土)	開港150年の湊まち新潟		10年後の湊まち新潟についての討論

■第3回ウォーク「河川の変遷と湊の埋没」[7月18日(土)]

ウォーク経路図



今回のウォークでは、「大型浚渫兼油回収船(白山)」と「新湊みなとトンネル」の概要説明後、白山に乗船しての船内見学とトンネル内自歩道をウォークし、兩岸のみなとタワーとトンネル設備等の視察が行なわれました。

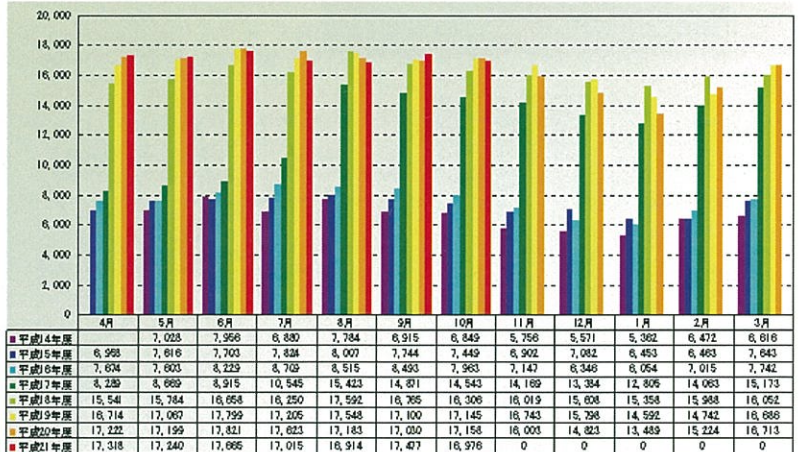


講演



新潟港開港時頃の河口部

[台/日] 平成14年度～平成21年度 新潟みなとトンネル交通量



◆信濃川の流下土砂による新潟港内埋没対策と「白山」による浚渫の役割、平成14年5月一部供用し平成17年7月全線供用(交通量倍増)された「みなとトンネル」などの説明を受けました。



白山乗船



白山ブリッジでの説明



トンネル自歩道歩行



入船タワー内管制室

◆「白山」に乗船し乗組員より船内設備等の説明を受け、下船後「みなとトンネル」内の自歩道部をウォークしながら、建設当時に工事を担当した「みなとクラブ会員」の案内により、トンネル立抗(兩岸のみなとタワー)の視察も行いました。

第4回ウォーク「水運で活用されている水路散策」[8月22日(土)]

乗船コース図



大人気の船による通船川散策であり、「通船川・栗の木川ルネッサンス」の協力によって大勢の参加者が5隻に分乗して水路散策を楽しみました。

通船川は信濃川と阿賀野川を結ぶ船通しの水路であると共に、東新潟周辺地域の都市排水と工業排水等の水路としても重要な役割を果たしています。



津島屋閘門排水機場出航



通船川航行



津島屋閘門へ帰還

◆昭和39年に発生した新潟地震後の災害復旧事業において、今までの「築堤方式」を抜本的に改め、河川の水位を人工的に低下させる「低水路方式」が採用されました。河川低水路化による効果として次の点が上げられます。

- 再び溢水・破堤のない河川となる。
- 都市排水の大部分は通船川に自然排水可能となる。



通船川護岸改良(階段・斜路)

◆山の下閘門排水機場のポンプを常時運転することにより、通船川と海面との内外水位差は約2mとなっており、通船川が低くなっています。その水位差を利用し、阿賀野川からの河川水を津島屋閘門を介して山の下閘門より信濃川へ排出することにより、通船川の水質浄化も図っています。



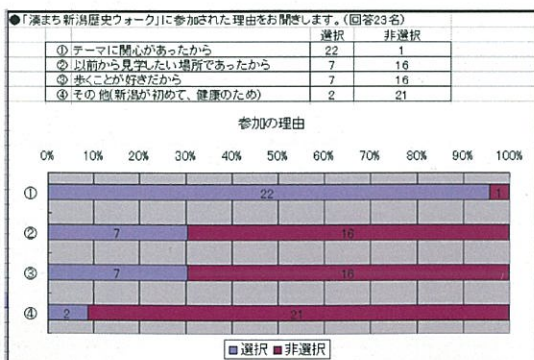
通船川護岸改良(自然再生)

◆水路護岸の老朽化や狭隘部分の改良事業にも着手しており、その中で憩いの場としての護岸整備も着々と進められております。



山の下閘門見学

平成21年度 湊まち新潟歴史ウォーク アンケート結果



みなと勉強会〈技術の伝承〉

◆「NPO法人新潟みなとクラブ」では、クラブ会員を講師として北陸地方整備局（港湾空港部）の職員を対象に勉強会「建設技術力養成セミナー」を開催しております。

◆平成20年度では、「防波堤築造技術」と「1級土木施工管理技士（2次試験）受験講座」を開催しており、平成21年度についても既に「受験講座」は終了し、今後は「岸壁築造技術」を予定しております。

◆「NPO法人新潟みなとクラブ」では、会員が先輩から受け継いできた貴重な技術のノウハウを、現職後輩達へと引き継いでいくことに力を注いでいます。

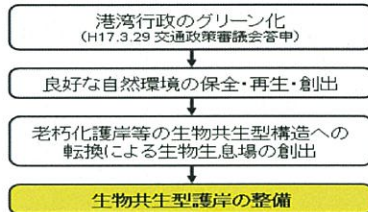


海域環境改善〈生物共生護岸の整備〉

◆全国の港湾における海域環境改善の取組

護岸や防波堤等、海岸を守る施設は直立式で整備されている所が多く、砂浜や岩礁と違い、干満帯に生息する多くの生物が定着しにくくなっている。
そこで、自然条件や構造形式などが異なる様々な条件の下で、護岸の一部として干潟や藻場等の整備を行い、老朽化対策と併せて耐震性を向上させるとともに、生物相の改善効果等の調査を実施する。

○20年度2次補正予算で全国5箇所にて実施



◆一般的に港湾構造物（防波堤・岸壁・護岸・海岸施設等）と言えば、コンクリート等の直立式で整備されている所が多く干満帯付近に生息する多くの生物が定着しにくくなっています。

そこで、平成20年度2次補正予算で全国5箇所（秋田港、新潟港、堺泉北港、北九州港、石垣港）にて、既存施設の老朽化対策と併せて干潟や藻場等の整備を実施することとなりました。

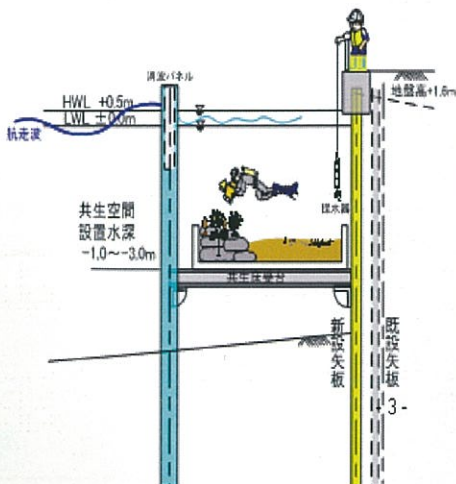
◆選定された新潟港は信濃川河口部に位置しており、淡水と海水が交わり多様な水生生物が生息可能なことから新潟港の事務所前（信濃川左岸）において護岸の改良に併せて実証試験の工事に着手したところです。

◆新潟港における海域環境改善の取組

新潟港（西港地区）において、水生生物共生型護岸の効果を検証するために必要な実験の実証方法及びモニタリング手法、さらには市民参加のあり方について検討を行う。



※検討結果については、地元有識者、環境技術専門家、水産関係者及び関係行政機関等で構成する「生物共生型護岸技術検討会議」を設置して指導、助言を受け、より効果的な検証方法の確立を行う。



◆新潟港の整備目的と「みなとクラブ」の関わり。

- 多様な生物の生息・生育が可能となる良好な環境を回復させること。
- 快適に憩える空間の形成を図ること。

これらのことをふまえ、有識者会議や市民の皆さんの声を聞く意見交換会を開催するなど、「NPO法人新潟みなとクラブ」では、そのお手伝いを積極的に進めております。



～ 新潟空港を花で飾る「2009年花絵制作プロジェクト」～

NPO法人新潟みなとクラブでは、昨年に引き続き新潟空港において花絵を制作展示するイベントに参画しております。

4月25日（土）、当日は雨模様のあいにくの天気でしたが、新潟市東区の子供達20数名をはじめ50名を越す参加者が集まり、皆さんで協力しながら花の採取から花絵の制作展示を行ない、空路新潟にお越しいただいた皆さまを温かく出迎えることができたと思っております。



新潟市近郊農家の協力を得て、約1万本の色とりどりのチューリップ摘みとり作業



新潟空港ターミナル前にて花絵制作を開始
予め用意された基盤に所定の色合いのチューリップを配し取付作業



ターミナルビル内に展示された花絵と共に記念撮影
今年第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）と第9回全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）の開催年でした
トキめき新潟国体のマスコット「トッキッキ」風アレンジした花絵の制作となりました

※写真提供：新潟市東区役所

<編集後記>

第4号（2008. 春号）発行以来1年半、久しぶりの第5号の発行となりました。

今回の「みなぼ一と新潟」では、新潟みなとクラブの活動だよりのなものとなってしまいましたが、これからは「特集やコラム」等に趣向を凝らし、除々にではありますが広報誌としての内容の充実を図って行きたいと考えております。

発行：NPO法人新潟みなとクラブ

事務局：新潟市東区太平四丁目20-32 TEL（携帯）090-5510-3443

「みなぼ一と新潟」に対する、ご意見・ご感想を上記あてにお聞かせ下さい。